



足跡なし

酷い藪でこれ以上進めない

現在の国土地理院
地形図には道が記
載されていない

国土地理院の地形図に道が記載されていたので、近道をしようと歩くも道が無くなり濃い藪が出てきて諦め、戻って登山道に合流した。

下山は郵便局が近いルートを選ぶことにした。地図にある実線のところまで引き返してみたが道らしきものはない。麓に近づいたら廃道でもそれなりに歩きやすくなるだろうという考えから「えーい！行ったれい！」とここから下山開始。最初は「全然歩けるやん」と余裕な気持ちで歩くも段々と藪々してきた。それでも「もうすぐ道路だ」と思って突き進む。しかし、後もうちょっとという所で笹藪の壁にぶち当たる。下りてきた藪を登り返そうという気にはなれない。

万が一のため母に位置情報を通知しとく。地形図をじっくり確認。西側に果樹園があるのでここまで行けば何とかなるかも？ と思って休憩後に西へ西へ進む。藪を進むのは止めてなるべく藪ってない方を選びながら登り返すことにした。登り切ったところで登山道が見えて無事復帰（HP参照）

この事例は、地形図の道が間違っているのでは？ と思いながら近道をした事例。道迷いの心理は、最初は「何とかなる！」と思って進むことが多い。しかし、現実には、濃い藪のため動けなくなってしまう。「もうすぐ道路だ」と自分を励ましているので、道迷いの心理ではかなり焦った状態といえる。地図をじっくり確認している間に冷静さを取り戻し、西側斜面を登り返す判断に至っている。『根拠がない』場合は、「何とかなる！」という考えは甘く、「何ともならない！」と思ってほしい。